

- 問1 沖縄県の産業構造において、製造業などの第二次産業の割合が低く、サービス業や小売業などの第三次産業の割合が突出して高い理由として、適切なものを選択してください。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 県外からの輸送コストが高いため、原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易型の工業が全く発達しなかったため。 | 2. 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。 | 3. 広大な平野を利用した機械化農業が推進され、農産物の加工から販売までを行う第六次産業が製造業に代わっているため。 | 4. 政令指定都市を中心とした都市圏が形成され、情報通信技術（ICT）関連の製造工場がすべて県外に移転したため。 |
|---|--|--|--|
- 問2 宮崎平野や高知平野の位置が示された地図において、これらの地域で温暖な気候を利用し、ビニールハウスなどを使って野菜の出荷時期を通常より早める工夫が見られる場合、この農業形態は何と呼ばれるか。 (2023年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 抑制栽培 | 2. 近郊農業 | 3. 促成栽培 | 4. 企業的農業 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問3 日本の諸地域を学習する際、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の七つの地方区分が用いられることがあります。宮崎県を含むこの地方区分に基づいたとき、宮崎県と同じ区分に属する県の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|-------------|------------|------------|
| 1. 熊本県・徳島県 | 2. 福岡県・鹿児島県 | 3. 広島県・岡山県 | 4. 愛媛県・香川県 |
|------------|-------------|------------|------------|
- 問4 九州地方の各県の産業を比較した統計資料において、豚の飼育頭数やきゅうりの生産量、製造品出荷額が一定の規模を有し、かつ「地熱発電量」が約823百万kWhと非常に多く、全国的にも上位に位置する県はどこか、名称を答えなさい。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 鹿児島県 | 2. 大分県 | 3. 宮崎県 | 4. 福岡県 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問5 九州の南東部に位置する県で、黒潮の影響を受けた温暖な気候を利用し、ピーマンなどの野菜を通常の時期より早く出荷する促成栽培や、肉用牛の飼育を中心とした畜産が盛んな県はどこか。 (2019年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 熊本県 | 2. 宮崎県 | 3. 鹿児島県 | 4. 高知県 |
|--------|--------|---------|--------|
- 問6 九州地方南部に位置する鹿児島県では、火山噴出物が堆積して形成されたシラス台地が広く分布しています。この土地の「水はけが良すぎる」という性質を背景として、古くから稲作が制限されてきた代わりに発達した、鹿児島県の農業産出額の半分以上を占める主要な農業部門は何ですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------|----------------|------------------|-----------------|
| 1. 温暖な気候を活かした果樹栽培 | 2. 近郊農業による野菜栽培 | 3. 豊富な地下水を利用した稲作 | 4. 広大な土地を利用した畜産 |
|-------------------|----------------|------------------|-----------------|
- 問7 九州南部の宮崎県や鹿児島県では、農業産出額の約6割を畜産が占めています。このように、この地域で豚や肉用牛、鶏などの飼育が盛んになった地理的理由として最も適切なものはどれですか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 火山灰を主成分とするシラス台地が広がっており、水持ちが悪く稲作に適さなかったため、広大な土地を利用できる畜産が行われるようになった。 | 2. 温暖な気候を利用して年に2回米を収穫する二期作が衰退し、その跡地をすべて牧草地に転換したため。 | 3. シラス台地は栄養分が豊富な土壌であり、家畜の餌となるトウモロコシや小麦の生産が国内で最も盛んに行われたため。 | 4. 海岸沿いに広がる平坦な埋立地を利用して、海外から輸入した飼料を直接加工する大規模な工場と農場が直結しているため。 |
|---|--|---|---|
- 問8 日本の各地方の統計データにおいて、人口が約1431万人、農業生産額が約1.9兆円、工業生産額が約25.7兆円を示している地方区分はどれか。西日本の他地域と比較して農業生産額が高い水準にあることも特徴である。 (2023年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|---------|---------|---------|
| 1. 中国・四国地方 | 2. 九州地方 | 3. 近畿地方 | 4. 中部地方 |
|------------|---------|---------|---------|
- 問9 鹿児島市の沿岸部において、1983年には海だった場所が2004年には「みなと大通り公園」や「水族館」が位置する陸地へと変化した。このような地形の変化をもたらした背景として正しいものはどれか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 火山の噴火によって流出した溶岩が海岸線に到達し、冷えて固まることで土地が広がった。 | 2. 大規模な地震によって地盤が急激に隆起し、海面下だった場所が陸地になった。 | 3. 地球温暖化の影響で海面が低下したことにより、浅瀬だった場所が自然に陸地化した。 | 4. 都市機能の拡充を目的に、土砂などで海を埋め立てて新たな土地を造成した。 |
|--|---|--|--|
- 問10 福岡県の自然環境について説明した次の文章のうち、正しいものはどれですか。県の北東部に位置し本州との境界となっている潮流の速い海峡と、県の南西部に位置し日本で最も干満の差が大きいことで知られる海の組み合わせを選びなさい。 (2021年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|-------------|
| 1. 関門海峡と有明海 | 2. 豊後水道と鹿児島湾 | 3. 津軽海峡と大村湾 | 4. 紀伊水道と伊勢湾 |
|-------------|--------------|-------------|-------------|
- 問11 関東地方の卸売市場におけるきゅうりの出荷状況をみると、福島県産などは夏場に供給のピークを迎えるのに対し、宮崎県産は11月から翌年5月にかけての供給量が多くなっています。宮崎県がこのような出荷時期の調整を行う主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---------------------------------------|--|
| 1. 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため | 2. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるために、栽培時期を冬に限定しているため | 3. 消費地である関東地方までの輸送コストを、冬場の方が安く抑えられるため | 4. 冬の乾燥した気候を利用することで、農薬の使用量を抑えた栽培が可能になるため |
|--|--|---------------------------------------|--|
- 問12 鹿児島県において、6月から7月にかけて降水量が著しく多くなる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. シベリア高気圧から吹き出す冷たく湿った北西の季節風が、山脈にぶつかり上昇気流を発生させるため | 2. 夏に小笠原高気圧が後退し、冷涼な北東の風である「やませ」が吹き込むことで大気が不安定になるため | 3. 年間を通じて安定した偏西風の影響を受け、瀬戸内海からの湿った空気が継続的に流れ込むため | 4. 梅雨前線がこの地域に停滞しやすく、南方からの暖かく湿った空気が供給されやすいため |
|---|--|--|---|
- 問13 九州の北西から日本海へ流れ込む対馬海流は、日本の気候、特に冬の日本海側の気象に大きな影響を与えています。この暖流が冬に大量の雪をもたらす仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 寒流と暖流がぶつかることで濃い霧が発生し、その湿った空気が季節風によって内陸へと運ばれることで雪へと変化する。 | 2. 暖流である対馬海流の上空で、大陸からの冷たく乾燥した季節風が水蒸気を蓄えて湿った空気となり、山脈にぶつかって雪を降らせる。 | 3. 暖流によって海水が冷やされることで上昇気流が抑えられ、乾いた風が吹き抜ける際に、山地で急激に冷却されて結晶化した雪が降る。 | 4. 対馬海流の影響で冬でも海面温度が下がらないため、低気圧が急速に発達しやすくなり、日本海沿岸にだけ局地的な大雨をもたらす。 |
|--|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。	沖縄県は、その温暖な気候や青い海、琉球王国時代からの独自の伝統文化といった観光資源を最大限に活用しています。ホテル業、飲食業、交通機関などの観光に関連するサービス業（第三次産業）が雇用の受け皿となっているため、就業者割合が極めて高くなっています。これに対し、本州のような大規模な重化学工業の集積が少ないため、相対的に第二次産業の割合が低くなっています。
問2	答え 3 促成栽培	温暖な気候を利用して野菜の成長を早め、市場に野菜が少ない時期に出荷する栽培方法です。宮崎県のピーマンやきゅうり、高知県のなすなどが代表的です。対して、長野県や群馬県などの高冷地で出荷を遅らせる方法は抑制栽培と呼ばれます。
問3	答え 2 福岡県・鹿児島県	宮崎県は九州地方に分類されます。選択肢のうち、福岡県と鹿児島県はいずれも宮崎県と同じ九州地方に属する県です。愛媛県、香川県、広島県、岡山県、徳島県は中国・四国地方に分類されるため、宮崎県とは異なる地方区分となります。このように地方区分を理解することは、日本全体の地域的特徴を把握する上での基本となります。
問4	答え 2 大分県	九州地方は全体として火山が多く地熱資源が豊富ですが、その中でも北東部に位置する大分県は、国内最大級の地熱発電所である八丁原発電所などを有し、地熱発電量が全国トップクラスとなっています。また、統計資料において、鹿児島県や宮崎県ほどではないものの豚の飼育が行われており、農業・工業・エネルギー産業がバランスよく展開されているのが特徴です。
問5	答え 2 宮崎県	九州山地の東側に広がる宮崎県は、冬でも暖かい気候を活かした農業が特徴です。宮崎平野を中心にピーマンなどの促成栽培が行われているほか、肉用牛の飼育頭数は全国でもトップクラスを誇り、畜産が県を代表する産業となっています。
問6	答え 4 広大な土地を利用した畜産	鹿児島県に広がるシラス台地は水持ちが悪く、大規模な水田稲作には適していませんでした。そのため、広大な土地を有効に活用できる畜産業が発展し、現在では肉用牛、豚、鶏の飼養頭数・羽数が全国屈指の規模を誇る日本代表的な畜産県となりました。統計上でも農業産出額の約65%を畜産が占めています。
問7	答え 1 火山灰を主成分とするシラス台地が広がっており、水持ちが悪く稲作に適さなかったため、広大な土地を利用できる畜産が行われるようになった。	九州南部に広く分布するシラス台地は、過去の巨大噴火による火山灰などが積み重なってできたものです。この地層は水はけが非常に良く、水分を保持する力が弱いため、大量の水を必要とする稲作（水田農業）には向いていませんでした。そのため、古くからサツマイモなどの畑作が行われるとともに、広大な土地を活かした豚や肉用牛、鶏などの畜産業が発展し、現在では日本有数の畜産地帯となっています。
問8	答え 2 九州地方	人口規模に加え、農業生産額が約1.9兆円と西日本の中で高い水準を示している点が九州地方を特定する鍵となる。九州地方は筑紫平野や宮崎平野などを中心に農業が盛んであり、近畿地方や中国・四国地方と比較しても農業産出額の規模が大きい傾向にある。
問9	答え 4 都市機能の拡充を目的に、土砂などで海を埋め立てて新たな土地を造成した。	かつて海であった場所に公園や水族館などの大規模な施設が整備されているのは、人工的な埋め立てが行われた結果です。これにより海岸線が以前よりも沖合へ移動し、土地の利用形態が大きく変化しました。地盤の隆起や溶岩による変化ではなく、計画的な都市開発によるものです。
問10	答え 1 関門海峡と有明海	福岡県の北東端には山口県との間を隔てる関門海峡があり、古くから海上交通の要所であるとともに潮流が速いことで知られています。一方、県の南西部に面する有明海は、遠浅の干潟が発達しており、干潮と満潮の差が最大で6メートルにも達する日本最大の干満差が特徴です。
問11	答え 1 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため	農産物は市場に出回る量（供給量）が少ない時期ほど、価格が高くなる傾向があります。宮崎県では、冬でも暖かい気候や施設園芸の技術を活用し、多くの地域が栽培できない冬から春にきゅうりを出荷することで、競争を避け、農家の収益を高める工夫をしています。これを促成栽培と呼び、地理的な利点と市場経済の仕組みを組み合わせた農業経営の一環です。
問12	答え 4 梅雨前線がこの地域に停滞しやすく、南方からの暖かく湿った空気が供給されやすいため	九州南部は地理的に梅雨前線の通り道にあたり、前線が長期間停滞することが多いためです。この時期には熱帯付近の湿った空気が次々と流れ込み、地形の影響も相まって、しばしば記録的な大雨に見舞われることが背景にあります。
問13	答え 2 暖流である対馬海流の上空で、大陸からの冷たく乾燥した季節風が水蒸気を蓄えて湿った空気となり、山脈にぶつかって雪を降らせる。	対馬海流は黒潮（日本海流）から分かれて日本海を北上する「暖流」です。冬になると、ユーラシア大陸から冷たく乾燥した北西の季節風が吹きますが、この風が比較的暖かい対馬海流の上を通過する際、海面から蒸発した大量の水蒸気を吸収します。水分を含んで湿った空気となった季節風が、日本の脊梁山脈にぶつかって上昇することで雲が発達し、日本海側に世界的な豪雪をもたらす原因となります。